

掘りおこされた古代の祭り

古代人は、どんなカミを祀り、何を祈ったのか？

カミを祀り、祈りを捧げた古代人の心の世界は、時として遺跡の中からかいま見ることが出来ます。そうした祭りの姿を私たちは、遺跡の中からおぼれだけ知ることが出来るでしょうか。



遺跡の近景 斜面から多くの建物跡、谷間から様々な祭祀遺物が出た。



祈りを捧げた道具！

峠の祈り

…松江市竹矢町・オノ峠遺跡…

峠には、「オノ神サン」と呼ばれる、境の神が住むと信じられてきました。この遺跡はまさに境の峠、「さいのとうげ」に位置しています。峠に近い建物跡やその周辺からは、奈良時代ごろのミニチュア土器、土製の玉や鈴、馬形、鏡形、石製の紡錘車や鈴、水晶製の丸玉、木製の船形、琴柱、火鑽白など、多種多様な祭祀遺物が出土しています。また、悪霊を退散させると信じられていた桃の種も300個ほど発見されました。

いずれも、ムラ境の峠で、邪霊が自分たちのムラに侵入するのを防ぐために祈りを捧げた道具でしょう。



遺跡の遠景 山のふもとに遺跡が広がる。

泉と農耕の祭り

…隠岐郡西ノ島町・兵庫遺跡…

日本海を望む小高い丘の上にある遺跡です。今でも水が湧くと言われる泉とその水路のあたりから、古墳時代後期を中心とする多量の土器とともに、ガラス小玉、管玉、勾玉、土玉などの玉類、ミニチュア土器、鉄鏃、矢じりなどが多数出土しました。また付近の炭化物を含む土砂からは、クジラやマダイ、コブダイの骨、大麦などが見つかりました。

これらはカミに捧げた供物の残骸で、ここは、集落における水と農耕にまつわる祭祀の場だったのでしょ。見上げれば愛宕山という円錐形をした山が見えます。おそらく「カミが籠もる山」であったと考えられます。古代の人びとが祈りを捧げた神は、この聖なる山であったかもしれません。



出土した祭祀の道具とお供えのための土器

生命の源「水」・川辺の祭り

…大田市大代町・大家八反田遺跡…

中国山地の小さな谷あいから、古墳時代中ごろのカミ祭りの場所と道具立てを物語る、かつこうの祭祀遺跡が発掘されました。かつての川跡やそこから水を導いた溝跡、わき水が流れ込む溝跡などが見つかかり、その岸辺や底には多くの石が敷かれたり、集められたり、木杭が立ち並んだりしていました。

あたりからは、おびたしい数の土器をはじめ、ミニチュア土器、スプーン形の土製品、鏡や勾玉をまねた土製や滑石（やわらかく加工しやすい石）製の模造品、鳥形木製品、桃の種などが水中に捨てられたかのように見つかりました。土器類の多くはカミへのお供えに用いたのでしょうか。鏡形や勾玉形の模造品には、いずれも小さな穴が開いていました。ここに糸を通して神などの木枝につり下げ、カミの依り代（カミの宿る場所）を飾ったとも想像されます。

大量の遺物は、この水辺でくり返し祭りが行われたことを思わせます。生命の「水」を司るカミに、古代の人びとは五穀の豊作を願い、生命への感謝を込めて祭りを行っていたのでしょうか。



遺跡遠景 遠くに大江高山を望むことができる。



遺跡から出土した大量の土器と石



復元！カミの依り代

道路〜古代と未来のクロスロード〜

道路 それは私たちの生活に欠かすことのできないものです。県内いたるところに道路網は広がり、私たちの生活を変え便利にしてくれています。近年は高速道路（高規格道路）やハイパスの建設も盛んになり、県内はもとより県外との交通も便利になってきました。

道 路ができるということは、交通網が整備されるだけではなく、今までわからなかったその地域の歴史や文化遺産を、私たちの前に現してくれる絶好の機会といつてもあります。道路の建設に際して行われる発掘調査によって、私たちが驚かせた島根の歴史遺産は、これまでも数多くありました。三五八本の銅剣が見つかかり、全国にその名をとどろかせた荒神谷遺跡も、農道の予定地に見つかったものです。

何 キロ、ときには何一〇〇キロにもおよぶ道路の建設は、いくつもの市町村にまたがって事業が進められるため、発掘調査も広範囲で行われます。今までは狭い範囲でしかわからなかったことが、大規模な発掘調査によって、全容が明らかになることもしばしばです。

一 つ山を越えるだけで、二〇〇〇年も前から生活の様子がまるで違っていたり、地域間でよく似ていたりすることもある。道路の建設に伴う発掘調査でわかります。この「コーナー」では、そうした道路建設によって明らかになってきた、島根の歴史を詳しく紹介しましょう。

